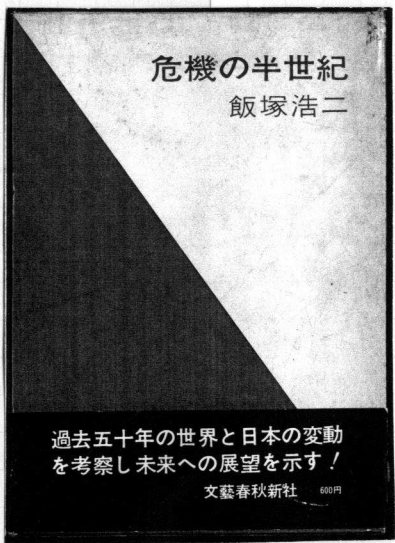


飯塚浩一 いひづか 人文地理學者、文學博士。明治二十九年四月二日東京生れ、昭和四十五年十一月四日歿（九三六―七〇）。昭和五年東京帝國大學經濟學部卒。ナランズに留學して人文地理學を學ぶ。歸國後外務省國際文化事業部嘱託、と敎大學敎授を経て、昭和十七年東京帝大東洋文化研究所教授（のち所長）。論壇でも活動、文明批評家として知られた。『飯塚浩一著作集』全十卷（昭和四十九年―五十二年刊）がある。

著譯書に、『社會地理學の動向』（昭和七年九月）『郷土教育聯盟、刀江書院發賣「郷土科叢書刊」』、『ブライシユ著『人文地理學原理』全二冊（譯、上巻・昭和十五年五月七日、下巻・十月五日岩波書店「岩波文庫」）、フエーザル著『大地と人類の進化・上巻』（譯、昭和十六年十一月十五日岩波書店「岩波文庫」）、『父の書齋』（合著・三省堂編、昭和十八年四月十五日（三省堂））、『日本文化提要・第一部』（合著・國際文化振興會編、昭和十九年二月五日國際文化振興會）、『近代日本の特異性』（岡義武・木村健康合著、昭和二十二年一月）十五頁白鳥書院「東洋文化講座」）、『比較文化論』（昭和二十二年二月十五日白鳥書院）、『東洋の文化』（昭和二十六年七月十五日福村書店「中学生歴史文庫」）、『日本の精神的風土』（昭和二十七年二月十五日岩波書店「岩波新書」）。

『われわれの七年―學徒戦犯の獄中からの手紙』（編、昭和二十八年二月）二十頁光文社）、『J・ネルー



著『インドの発見』全二冊（辻直四郎・蠟山芳郎共譯、上・昭和二十  
八年十月（二十頁）、下・二十一年七月（二百頁岩波書店）、  
『アジアのほ  
かの日本』（昭和二十五年六月二十日中央公論社）、『東洋史と西洋  
史のちひだ』（昭和二十八年四月二十日岩波書店）、『東洋への視覚  
と西洋への視覚』（昭和二十九年十一月二十日岩波書店）、『危機  
の半世紀』（昭和四十年十一月二十日文藝春秋新社）、『ユーロップ  
・対・非ユーロップ』（昭和四十六年十一月二十五日岩波書店）、『時  
い出の本』（公署、昭和五十九年十月十五日出版（ニュー入社）等。